



## 平成26年度収支見通し決算報告

会計理事 大西 則男



アベノミクスも足掛け3年が経ち、その評価もいろいろと語られております。異次元の金融緩和による円安で株価の上昇がみられましたが、そのほとんどがヘッジファンドに代表される投機筋による株買い占めとも言われております。

日本経済は一向に上向かず、輸出企業は円安の恩恵を受け、社員の給料が増えていますが（これとても多くの企業が既に生産拠点を海外に移しており、その恩恵は限定的であります）、中小企業の従業員はじめ一般庶民は原材料の高値による物価高で可処分所得は減少しているようです。景気を上昇させるには一時的にも公共事業を増やす必要がありますが、厳しい財政事情の先行きも心配です。

昨今の問題は所謂第三の矢、規制緩和をはじめとする成長戦略でしょう。なかなか難問のようです（過去幾度となく提唱された規制緩和は有効な手段となり得ず、むしろシャッター街の出現、非正規雇用といった負の面ばかりが眼につきます）。人口対策、少子化対策が本質的な成長戦略と云われております。雇用が不安定では結婚はもとより安心して子づくりに励めません。

また法人税減税による大企業の利益がトリクルダウンでやがては経済全体を潤し国民が豊かになるという発想も、まさに絵に画いた餅のように想われます。これらのお金は社内留保や投機マネーと化すばかりとも云われております。

平成26年度の収支見通し決算をご報告致します。

医薬品の売上げは前期末に4月からの消費税増税前の駆け込み需要が大きく、4月の薬価改訂実施後にも拘らず対予算93.4%、対前年95.6%と共に減少でした。粗利は予測利益率を前年実績より少し低く見積ったこともあり、対予算90.1%、対前年94.6%止まりでした。

医療器の売上げは対予算87.3%、対前年83.6%と低

迷しておりますが、高価な機器一つの動向で大きく左右されます。開業サポートチームがしっかり対応させていただきますので、ご開業の際、また開業されるニュースをお聴きの際は是非、医師協にお声掛け下さい。

医療食も売上げ増に取り組んではおりますが、他社の進出や病院の給食様態の変化等もあり、対前年98.3%、対予算では95.1%と更に減少しております。

リネン販売も前年実績の約20%の減少で、粗利も前年の82.1%止まりでした。賃貸売上げは対予算98.2%、対前年99.7%と減少しており、粗利は対予算93.6%、対前年でも91.4%と共に減少でしたが、その原因の一つは神医協興産への外注分を増やしたこと、材料光熱費の値上り、大口顧客を失ったこととございます。

以上より事業総利益合計は対予算92.3%で約1億7千万円の減少見込みとなり、対前年でも92.5%と減少が見込まれます。

人件費は昨今の株価高による年金資産残高の運用益があり、その分引当金が減少し対予算、対前年共に少なく済んでおります。

一般経費は数年来の節約努力の成果もみられますが、新工場がらみもあり、対前年では微増致しております。事業利益は対予算5.4%の減、対前年では約1億5千万円減少してはおりますが、興産からの家賃収入等の事業外収入もあり、26年度の経常利益は対予算82.7%となり、対前年で約1億4千万円減ではあります。売上不振のなか、一応黒字を計上できそうです。もとより組合員の方々のご協力の賜ものに他なりません。今後より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

